



あなたと議会のかけはし

ふだい

# 議会だより

2014  
No. 128

平成26年8月21日発行



つめたくい!  
7月16日、はまゆりこども園で

くろさき荘の工事など14議案を承認・可決 2頁

26年度の一般会計補正予算を審議! 4頁

村の考え問う! — 4議員が一般質問 6頁

行政視察 — 長崎県平戸市に学ぶ 12頁



厨房・食堂部分が改築され、チップボイラーが設置される「くろさき荘」(8月11日)

平成26年村議会6月定例会が、6月19日に開かれ、「くろさき荘」チップボイラー設置工事や、普代浜園地の整備に伴う土地の購入、黒崎漁港の防波堤・護岸工事など14議案が村から提案され、審議の結果、全ての議案が全員賛成で可決されました。

村の政策を問う一般質問には4人が登壇。傍聴に訪れた普代中生の熱い視線を背に、人口減少対策や小学校の高台移転、自然環境の保護などについて村の施策を問いました。



中学生ら32人が傍聴する中行われた6月定例会

榎屋村長が行政報告

6月定例会は、役場3階議会場で午前10時に開会。大上浩史議長、金子泰男副議長ほか議員6人(定数10人)が出席したほか、村からは榎屋伸夫村長、太田敏光副村長、三船雄三教育長、各課長など11人が出席しました。

議会事務局などからの諸般の報告が行われた後、榎屋村長が、震災復興事業の報告、農林水産業の状況、道路工事の状況や今後の新たなPRイベントの周知、人口減少対策プロジェクトチームの立ち上げ、地域おこし協力隊事業など主要事業を説明しました。

その後一般質問、一般会計補正予算など各議案の審議などが行われました。

# 「くろさき荘」の工事など 14議案を承認・可決

可決された主な議案

普代浜園地の整備に  
1万5千㎡を取得

普代浜園地の整備を行うため、用地を取得するものです。

▼取得する土地：普代村第14地割字宇留部58-5(山林)▼面積：1万5789㎡▼取得価格：789万4500円

黒崎漁港などの  
工事請負契約の承認

黒崎漁港と国民宿舎くろさき荘の工事2件の契約締結がそれぞれ提出され、承認され

ました。

また、くろさき荘の食堂・厨房施設建設工事に消費税が3%増えた分の426万円を増額し、契約額を1億5336万円としました。

①黒崎漁港施設機能強化(防波堤・護岸)工事

▼工事場所：普代村字黒崎地内▼契約金額：1億4904万円▼請負者：宮城建設株式会社(久慈市)

②国民宿舎くろさき荘チップボイラー設置工事

▼工事場所：普代村字黒崎地内▼契約金額：5486万4000円▼請負者：オヤマダエンジニアリング株式会社(矢巾町)

固定資産委員に  
小中居さんを再任

任期満了に伴い、堀内の小中居敏勝さん(63)を村固定



小中居敏勝さん

資産評価審査委員会委員に選任することに全員賛成で同意

しました。任期は平成29年6月30日までの3年間で、小中居さんは今回7期目です。

補定 固定資産評価審査委員は、中立的・専門的な立場から「固定資産課税台帳」に登録されている土地・家屋などの課税審査などを行います。

消費税に伴い  
軽自動車税など増額

国の法律、政令、省令が平成26年3月31日にそれぞれ公布されたことにより、村でも村税条例を整備しました。

主な内容は、法人税割の税率が「100分の12・3」から「100分の9・7」に改正され、50cc以下の原付バイクは1000円から「2000円」に増額、そのほかの原付も排気量によって増額されています。

また平成27年4月1日以後に新規で購入した軽自動車税が7200円から「1万800円」に増額され、新車から13年以降の軽乗用も「1万2900円」に増額されます。国民健康保険税も課税限度額が2万から4万円程度引き上げられます。

6月定例会で可決されたそのほか議案・報告

- ・平成25年度一般会計補正予算(第8号)の専決処分に関し承認を求めることについて=国庫支出金・県支出金などが確定したことにより851万5千円を減額
  - ・平成25年度国民健康保険特別会計補正予算(第4号)の専決処分に関し承認を求めることについて=国庫支出金・県支出金などが確定したことにより2,959万4千円を減額
  - ・平成25年度国民健康保険診療施設特別会計補正予算(第4号)の専決処分に関し承認を求めることについて=国民健康保険特別会計繰入金が増額したことにより医科に727万円、歯科に325万円をそれぞれ増額
  - ・平成25年度簡易水道特別会計補正予算(第6号)の専決処分に関し承認を求めることについて=地方債が確定したことで357万4千円を減額
  - ・平成26年度普代村一般会計補正予算(第2号)=8,943万4千円を増額し、予算総額28億3,151万円とした
  - ・平成26年度普代村国民健康保険診療施設特別会計補正予算(第1号)=45万2千円を増額、総額は2億1,385万2千円
  - ・平成26年度普代村簡易水道特別会計補正予算(第1号)=461万5千円を増額、総額は1億2,211万5千円
  - ・平成26年度度普代村漁業集落排水事業特別会計補正予算(第1号)=予算総額を2,130万円とした
  - ・損害賠償事件に係る和解及びこれに伴う損害賠償の額を定めることに関し議決を求めることについて=賠償額132万9,127円
  - ・委員会審査報告(総務常任委員会)=岩手県の医療費助成制度について現物給付の導入を求める請願・継続審査
- ※専決処分とは…議会が議決または決定すべき事項を、特定の場合に限り、地方公共団体の長が議会に代わって処理すること。

# 村の課題を熱く、深く議論!



活発な議論が交わされた一般質問  
(熊谷有耕議員)

一般質問とは、議員が執行機関である村長などに対し、事務事業の状況や将来の方針などについて、問い正したりすることをいいます。村は「一問一答方式」を行っていますので、1人60分の制限時間内で質疑を繰り返します。

## 質問者は4人

### 【1番目】坂下 重雄 議員

- 情報発信し、人口対策を
- ソーラーパネル設置に注意喚起を

### 【2番目】森田 幸一 議員

- 学校移転、元村の高台へ

### 【3番目】中上 一登 議員

- 人口減少を考えた運営を
- 新教育長の教育方針は

### 【4番目】熊谷 有耕 議員

- 鮭が産卵できる環境整備を

## 26年度一般会計補正予算を審議

# 子育て世帯などに1万円を支給!

一般会計補正予算は、歳入歳出それぞれに8,943万4千円を増額し、総額を28億3,151万円としました。主な内容は、消費税が8%に引き上げられたことによる国からの一時給付金の支給や被災農業者緊急支援事業、村道の補修工事、普代浜の園地整備事業など。同補正予算の主な質疑は次の通りです。



国からの一時給付金として児童手当の受給者に1人1万円が支給されます

### 堀内中央道工事での取り付け道路の改良を

中上議員

堀内中央道改良工事で国道45号に抜ける道路ができなかった。その工事により元の生活道路が使用できなくなり、私有地を通るといふこともおかしが、ブロックが中央にあり非常に通りづらい。改良の考えはないか。  
太田建設水産課長  
三陸国道事務所と交通安全

### 臨時給付金の進め方は

中上議員

臨時福祉給付金と子育て世帯臨時特例給付金はいろいろ規定があるようだが給付の

進め方は、

坂下住民福祉課長  
消費税が上がった関係で、27年9月までの臨時的な措置として国から給付される。臨時福祉給付金の対象は基本的に26年度分の住民税が課税されていない方。支給額は1人1万円。老齢基礎年金などの各種年金、児童扶養手当をもらっている方は5千円が加算される。  
子育て世帯臨時特例給付金は、基本的には26年1月分の児童手当を受給している児童

### 土地の売り払い収入は

中村議員

土地の売り払い収入179万円の内容を伺う。  
証屋村長  
白井の越戸商店に山林約6000平方メートルを売却したものである。  
震災前からの案件で、抵当権解除で時間がかかったが、一帯を工場用地とし村の雇用確保につなげるために進めて

### ホームページ作成など専門職員の配置を

中上議員

「青の国ふだい魅力発信事業」の中にホームページリニューアルのため業者に74万円の予算との説明だが、ホームページなど全般に専門の職員配置をしようか。  
川向総務課長  
魅力発信ツールというところで観光動画を作成する。全部で12項目を各60秒の動画で、古い映像に新たな映像を加え

### 被災農業者支援の補助対象の決定方法は

坂下議員

被災農業者緊急支援事業1千34万円はどのような方法で補助決定したのか。  
佐々木農林商工課長  
全施設を回り、復旧要望など調査し、申し出のあった4人に補助となった。国、県の補助で、村は6分の1の負担となる。

### 子ども園の臨時賃金と園庭整備費の内容は

中村議員

子ども園での臨時職員の賃金増と園庭整備費の補正228万円増について伺う。  
松葉教育次長  
臨時職員の賃金増は、当初予算後に調理師の退職を受け、栄養士を採用し調理も担当してもらうため、賃金格差の増となる。  
園庭整備は、道路側に駐車場を設けるため、舗装が伴い、工事費高騰も重なりこの額となった。

### 村農業委員に野崎才子さん推薦



7月19日で任期満了になる農業委員会委員に太田名部の野崎才子さん(61歳写真)を議会推薦しました。任期は3年です。

### 第6回臨時会

歳入歳出に1億69万6千円を追加し、予算総額を28億3320万6千円としました。主な歳出は海区漁業調整委員会委員選挙費などです。



# 学校移転、元村の高台に

もりた こういち  
森田 幸一 議員

# 研究・検討事項とする

むらきみ りゅうじ  
柎屋 村長

## 一般 質問



# 情報発信し、人口対策を

さかした しげお  
坂下 重雄 議員

# 知恵を出し合い取り組む

むらきみ りゅうじ  
柎屋 村長



普代水門（中央奥）の近くにある現在の普代小

**避難所として活用も**  
森田議員  
新聞の報道によると文部科学省は、沿岸部に立地する学校の津波対策を考えた学校施設整備の改定案を決めた。避難所としても活用できる学校を元村地区の高台へ移転する考えはないか。  
柎屋村長  
文部科学省では津波対策や、災害時の避難所としての機能強化を新たに取入れた、学校施設整備指針の改定案を取りまとめ、7月中にも正式決定するところだ。

改訂内容は、津波対策では高台避難が可能な場合は避難会談や避難路整備を、周りに緊急避難所がない場合は、高台移転や他の公共施設と一緒に高層化にするなどを対策の例としている。  
現行制度では、南海トラフ地震の「津波避難対策特別強化地域」で行う集団移転事業だけに支援処置をしていて、ほかの津波対策目的で学校が単独で高台移転するケースは補助対象外となっている。  
現段階での普代村の一貫校の取り組みへの影響は、明確には判断できない。  
また、小中学校が普代水門がないと想定した場合でも浸水区域外であり、小学校から中学校への避難路、そして中学校から三陸沿岸道への避難階段も設置し、安全への対策をより進めているところだ。いずれにせよ、児童生徒の



普代道路への避難階段を活用した避難訓練

安全に関わることであり、文部科学省の正式決定があり次第内容を正確に把握し、対処する。  
小中一貫校の整備については、小中同時新設、中学校施設を大規模改造しての小学校併設新設、中学校施設の増改築の4例で検討を深める。そして専門技術者による調査なども行っている。  
**想定外もありうる**  
森田議員  
答弁の中で、普代水門がな

い場合であっても、小中学校は浸水区域外であるとうことだったが、想定外もありうるので、安全を期していただきたい。  
また、3・11では被災者が学校に避難して助けられた事例もある。村で学校を建設する際は、ヘリポートをつくったり、臨時の病院のようなものも開設できるようにしてはどうか。  
柎屋村長  
現施設は避難場所にはなっていない。普代道路に上がり、バスでB&G体育館に避難する訓練をしている。  
当面は、そのような対応で子どもたちの安全・安心を保っている。  
今後、今の地区から動くようになった場合は、立地の状況、交通アクセスなどを踏まえた中で、指定避難場所にするとか整備をするとか、議会との相談、住民との相談となる。  
震災の経験を踏まえ、教訓を生かしてこれまで可能な限り、現状での子どもたちの安全・安心対策をとってきたが、今後もさらなる万全を期して取り組むたい。



自然豊かな普代（茂市地区）

**積極的な情報発信を**  
坂下議員  
里山、休耕農地、空家を活用、そこに投資支援して地域の産業基礎を整えて、Uターン、イターンの誘致情報発信を積極的に進めるべきである。最近の統計でも多くの人が地方、ふる里志向が高まっているといわれる。  
この地域は地理的に不利な面もあるかと思うが、いろいろ情報手段を駆使して誘致活動を行うことであると考えるが、村長の考えを伺う。

柎屋村長  
過疎人口対策であるが、都市部での経済雇用情勢による変動もあるが、田舎暮らしを希望する方も増しているとも聞く。その傾向は弱まらないとも考えられる。  
地方過疎地はどこでも児童生徒を持つ夫婦や、若年女性などUターン、イターンなどに期待し、そのためには就業の場、住宅の準備もし、招致に努めている。  
本村でも就農者の受け入れに長年取り組んでおり定着し頑張っておられる方もあり、

現在も募集の情報発信を続けているところである。  
なお、就農の方には住宅の準備や、一カ年限り120万円の支援も行うこととしている。  
就農のほか幅広い業種にも取り組み、対策チームを中心に思い切った対応姿勢の下、積極的に具体策の検討をし、将来展望に立った意識の改革、知恵を出し合い取り組んでいきたい。

### 設置に注意喚起を

坂下議員  
急激に太陽光発電の普及が進み、各メーカー、販売業者が多くなり、必然的に売り込み競争となっている。  
中には悪質強引さに根拠なし契約、あとになって悔やみ大きな負担を抱えることにもなる。すでにそのような例も聞く。  
住民保護の意味からも、今後の動向を見て注意を呼び掛ける必要があると考えるが、村長の意見を伺う。



最近多く見られる家庭用ソーラー発電

村長  
悪質な商品の販売の対応については、久慈広域消費センターと共同で相談員を随時対応させている。村でも消費生活センターだよりを月一回全戸回覧して注意喚起の呼び掛けをしている。  
家庭用ソーラー発電については、環境意識の高まりや補助制度の活用もあり販売活動が展開されている。被害に関する相談は現在のところ村には寄せられていない。  
同センターには、24年度に2件〜7件と増加傾向にあり、今後トラブル発生の懸念もされることから、その拡大防止のためセンターからの情報を収集して注意喚起の徹底を期す。



# サケ 鮭が産卵できる環境を

くまがい ありたか  
熊谷 有耕 議員

## 環境改良を進めていく

梶屋 村長

### 一般 質問



# 人口減少を考えた運営を

なかがみ かずと  
中上 一登 議員

## 対策チームで取り組む

梶屋 村長



普代川を遡上する鮭

村の主な河川の頭首工は、普代川には、上区

熊谷議員

人工ふ化を繰り返している

### 環境を守り伝える

鮭は放流したところまでしか戻らないという前提がある。今産業の面で、ある一定時期、鮭の産卵用に捕獲されているが、捕獲をやらないうちに漁道を確保し上流に上げる取り組みをし、全体的な自然環境、貴重な資源を守っていく姿勢で取り組む。

熊谷議員  
村の作ったコンクリート構造物のため、鮭が上流で産卵できない。上流で産卵することで森にも栄養を与え豊かな森林も育っている。村の構造物に魚道を整備する考えはないか。

### 構造物に魚道整備を



普代川の上流域にある上普代頭首工。鮭の遡上などを考えて作られています

ベツ川のように自然産卵の回帰率が人工ふ化より上回っている例もある。産卵後は森と川の生き物の

このうち魚道があるのは、上普代頭首工だけ。従ってほかは遡上が極めて困難という状況にある。

今後は工法などを検討し、河川管理者である県とも協議し前向きに取り組む。

中上議員  
人口減少が加速する中で、どこまでが持続可能と考えるのか。

### 村民との情報共有を

梶屋村長  
それぞれの町村に事情、条件があるので一概には言えないが、人口減少対策プロジェクトチームや対策本部などに目標値を検討するとすれば2500人以上が一つの検討



村の人口減少を調査研究するプロジェクトチーム。若い村職員20人で構成されます。1回目の会合が7月4日役場で行われました

ペースとなる。

中上議員

人口減少が話題となり、再び合併や道州制へ向かうことが予想され、政府も議論を深めようとしている。道州制に対する考え方は。

村長

現在与党でも都道府県を廃止し、10程度の道や州への再編を検討する動きがある。道州制により、町村の財源がどこまで保障されるか不明である。規制緩和を狙う財界主導

の面が大きく、経済、大企業優先と考えざるを得ない。何がどう変わるのか具体的な判断ができない以上反対という立場である。

中上議員

人口減少を前提とした村政運営が必要であると思う。思い切った行政改革ということも考えの中にあるのか。

村長

さきにふれた「地域おこし協力隊」についても、村の活性化と、また定住の可能性もあり早く実現できるように取り組みたい。

中上議員

道州制などに備えた村民との議論を深めておくべきだ。「人口減少対策プロジェクトチーム」は村長にとってどういう位置付けか。

村長

我々に入る情報は共有し、住民の方々の判断、意見など

をいたたく形になればと思っている。「人口減少対策プロジェクトチーム」は一つの課を立ち上げて取り組むべきものと、強い思いをもって望んでいる。

### 新教育長の方針は

中上議員

小中一貫校を中心とした、幼小中連携教育が成果を出しはじめているところである。新教育長としてのどのような方向へ進めていくのか伺う。

三船教育長

これまでの成果が少しずつ形になってはきているが、「小1プロブレム」、いわゆる新入生が集団的行動ができない、座っていれない、先生の話が聞けないなどの課題もある。それを防ぐために幼小中連携教育研修会の充実を図っていく。

施設一体型の一貫校建設を視野に進めていく中で、方向性が具体的になれば課題が明確になってくると思う。小中一貫校は、当然建つものと思つて事業を進めている。

とだんだん弱くなる。鮭が元気に帰ってくるのは、昔からの何千年という歴史があり、その強い遺伝子があるからこそ今の人工ふ化も成り立っている。

魚道の整備をやつて終わるのでなく、その先のこと、森のこと、自然環境を守り子どもたちに伝えていくことが必要である。

鮭漁を維持するためには、もう一歩踏み込んだ村長の強い思いがなければ次の代に受け継いでいけない。

村長



資料を見ながら傍聴する中学生



ピンと張り詰めた空気が漂う議場



答弁する梶屋村長(左)



一般質問をする森田議員(左)

# すごい議論だった！ 中学生の感想を紹介

普代中3年生26人が6月定例会を傍聴しました。同傍聴は10月上旬に予定している「中学生議会」の事前勉強として実施。少し難しい内容もあったようですが、村民の代表である議会と村が、一つの方向性を決める討論の一部を垣間見たようでした。中学生の感想を一部紹介します。

初めて村議会を見て、活発な議論ですごく良かったです。難しい話とかも出ていて内容の全部は分かりませんでした。が、普代村を良くしていく意見がたくさん出たのが分かりました。

学校の生徒総会と違って一つのことについて長く時間をかけて話し合ったり、答えについての意見や質問を言ったり、その話題について深い話し合いをすることが多いなと思いました。

今日話し合っていたことは、これから普代村を支えていく世代の自分たちに関係ない話ではないので、村長さんの意見が聞けたり、これからの村がどのようなようになっていくのかというイメージもふくらんだしよかったです。村のことをもっと知りたい気持ちになりました。

人口の話題から鮭の話まで、一つの話からみんなの意見を聞いたりして、大変そうなる場所もあったけど、その話題を、みんなが理解するまで、話し合っていたのがすごいなと思いました。

人口の話では、今から小学校と中学校の人数が減っていくことが分かったし、太陽光パネルの話は、初めて聞いたことなので、なんとなく分かりました。

小中一貫教育では、小学校の先生が中学校に来て教えたり、逆に中学校の先生が小学校に行き教えたりすることがほかのところではあまりないことだと分かりました。

皆さん一人一人が普代村のことを考えていて、そして自分の意見を持って、話し合っていたのがとてもすごいなと思いました。



及川 愛さん  
普代中3年

自分の意見持つこと大切



下道 樹里さん  
普代中3年

村のこともっと知りたい

村議会を見て、率直にすごいと思いました。最初は、かたくるしいところだと思いましたが、議会では、最初に諸報告をやっていたのでしたが、あまりの多さに驚きました。

議員さんの質問にも、村長さんが分かりやすく、具体的に意見を言っていました。資料も使っていて、僕たち3年生にも分かりやすかったです。かつよかったです。

これからも普代村のために活発な議論をよろしくお願いします。

僕たちに関係のある校舎の高台移転や教育のことなども、話し合っていました。議会を見て僕たちも普代村のためになにかできないかと、考えさせられました。



意見を述べる中上議員

議会を見学して一人一人が村や村民のことをよく考えていることが、ひしひしと伝わってきました。

人口減少についてやソーラーパネルのことなど、村民や村のためにやるべき話の話を聞かせていただき、勉強になりました。



嘉村 魁人さん  
(同)

自分にできること考えた



石川 草太さん  
(同)

諸報告の多さに驚いた

私は初めて普代村の議会を見ました。議員の皆さんが住民の声や意見を取り入れながら、村のことについて議論していることに、とても感心がもてました。

特に印象に残っていることは、「鮭が自然産卵できる環境の整備について」という質問です。私たちが見ている山や川は昔より劣っていて、鮭があまり帰ってこないということが分かりました。また議員さんの言った「昔の人がつくってきたことを守り継いでいきたい」という言葉に感動しました。

議員さんたちだけでなく私たち住民もしっかりと普代村について考え、村をよくしていくために、私たちもいろいろな行事に参加したりして盛り上げていければいいなと思いました。

普代中学校の生徒総会でも、ただ意見、質問を言っていて「はい、分かりました」で終わるのではなく、その場に合ったことができれば、より濃い内容の話し合いができると思うし、どんな良い学校になるんだと感じました。今の普代中を創っていくのは、自分たちなので、生徒総会では、積極的に自分の意見が述べられればいいと思いました。

議会全体で感じたことは、皆さんのアドリブ力です。一般質問要旨だけでなく、その解答から、再質問もあつてすごいなと思いました。

また最後の「鮭が自然産卵できる環境の整備について」では、村長さんが言ったことに対し、議員さんは「でも、自分はこう思う」という考えをはっきり言っていていいなと思いました。



太田 美里さん  
(同)

生徒総会に生かしたい



太田 麗菜さん  
(同)

議員さんの言葉に感動

僕は、議会を今回のようにしっかりと見たのは初めてでしたが、議会ですごくいいと思いました。

村のことについて真剣に考えて、意見を発表し、それについて話し合う姿がかっこよかったです。とくに鮭の採卵を自然か人工でやるかについて話し合っていた時、議員さんはジェスチャーしついで、自分の気持ちを伝えていました。

それに対して村長さんの意見もすごく分かりやすく、小さな村でもよりよい村にしよう、皆頑張っているんだなと思いました。

今、僕たちが良い環境でいれるのは、議員さんや村長さんのおかげだと思いました。議員さんや村長さんなど、皆さんの村への愛が僕たちに伝わってきました。

10月上旬には、いよいよ「中学生議会」が行われます。今後、生徒の皆さんが社会の一員となるとき、この経験が生かされればと願っております。

議長として常日ごろから村民の皆さんに議会にもっと関心を持ってもらいたいという思いがありました。その中で前途ある若い中学生にも感心を持ってほしいと、佐藤嘉宏校長先生に話をしたところ快く引き受けていただきました。

感想を見ると、生徒の皆さんはそれぞれいろんな思いを持ちつつ、議会に関心思うと同時にそのことは村、議会にとって非常に有意義なことと認めております。



大上 浩史 議長

この経験を  
将来に生かしてほしい



上下 一総さん  
(同)

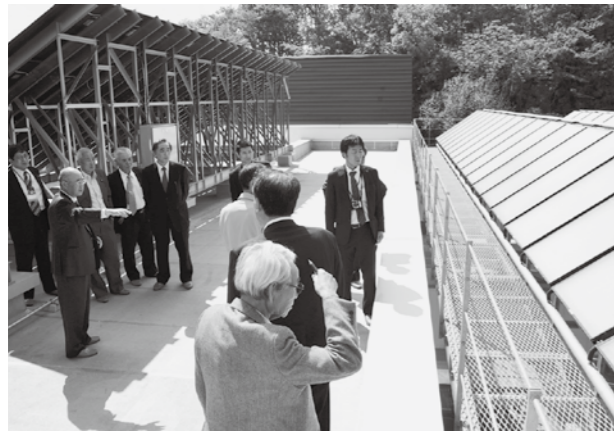
村への愛、伝わった

僕は、議会を今回のようにしっかりと見たのは初めてでしたが、議会ですごくいいと思いました。

村のことについて真剣に考えて、意見を発表し、それについて話し合う姿がかっこよかったです。とくに鮭の採卵を自然か人工でやるかについて話し合っていた時、議員さんはジェスチャーしついで、自分の気持ちを伝えていました。

それに対して村長さんの意見もすごく分かりやすく、小さな村でもよりよい村にしよう、皆頑張っているんだなと思いました。

今、僕たちが良い環境でいれるのは、議員さんや村長さんのおかげだと思いました。議員さんや村長さんなど、皆さんの村への愛が僕たちに伝わってきました。



太陽光パネルを見学する議員ら

## 再生可能エネルギーを視察

村議会と村は5月13日、再生可能エネルギーの先進施設、社会福祉法人ふじの園・児童養護施設「一関藤の園」（一関市）を視察しました。

同施設は、3階建ての鉄筋コンクリート造りで床面積は1,815平方メートル。東日本大震災を教訓に建てられ通常の建物の1.3倍の強度を持ち、太陽熱、太陽光、バイオマスエネルギー（木質チップボイラー）、地中水エネルギーなどあらゆる自然エネルギーの機器を配備しています。総工費の7億5千万円は全て寄付金で、昨年6月に完成しました。

## 普代小児童が議場を見学

普代小学校（鎌田和也校長、児童118人）の3年生16人が6月6日、役場3階にある議会議場を見学しました。児童たちはめったに座ることのない議員席に座り、いすの座り心地や机の大きさ、議場の広さなどを興味深そうに見ていました。その後、児童たちは元気に手を挙げ起立し自分の名前を言い、役場の大きさや会議室の数、仕事の内容などを総務課職員に質問しました。

同学習は、社会科の授業で学習した内容を実際に見学する目的で実施。この日児童たちは、鶴鳥神社や黒崎展望台、普代ダムなど村内を見学しました。



議員席から質問をする児童

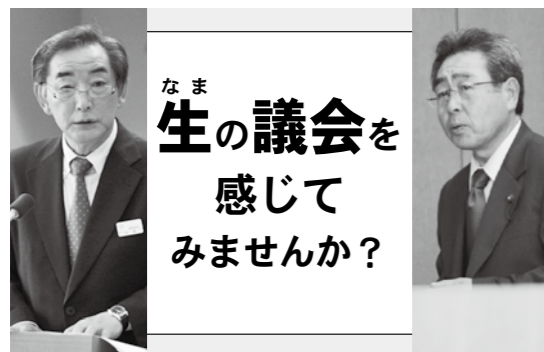
## 夏季議員講座、88人が受講

県町村議連会主催の夏季議員大学講座が8月6・7の2日間、岩手県自治会館で開かれ県内から88人が参加。村からも議員4人が参加しました。

講座の内容は、「住民に信頼される議会とは」「気象情報の地活用と自治体の防災対応」「米内光政～その生涯と業績～」「日本農業の国際競争力を考える」「日本政治の行方」など。参加者の皆さんは、社会情勢や議会の課題などについて熱心に聞き入っていました。



講師を務めた毎日新聞専門編集委員の与良正男さん



なま  
**生の議会を  
感じて  
みませんか？**

議会は、村（行政）の政策を引き出し、集約、調整し、決着をつける場。その論点、争点を公開するのが「討論の広場」である議会の使命です。討論は「議会だより」より「議場」で感じてください。次の定例会は9月中旬を予定しています。

**傍聴、お待ちしております！**

## 行政視察 — 長崎県平戸市に学ぶ



# 「ふるさと納税」1億円のまち ヒットの秘密とノウハウ研修



平戸市役所内で説明を受ける大上議長ら

### プロ撮影の商品を掲載

平戸市に寄付をすると、「ふるさと納税カタログ」が送られてきます。ホームページなどで画像を見て特産品を選ぶ自治体が多い中、平戸市ではカタログ掲載の約83種類から選ぶことが可能です。

村議会は7月18日、ふるさと納税での先進地・長崎県平戸市を視察しました。同市は本年度すでに寄付金が1億円を突破。多くのテレビなどに取り上げられています。寄付が飛躍的に伸びた理由の一つには「ふるさと納税カタログ」と「ポイント制」導入がありました。

### カタログ制作とポイント制を導入

やすいと大好評。「いかに食べたくなるように見せるかにこだわりました」と担当の企画財政課・黒瀬啓介さん。カタログは一般企業にも負けない出来映えでした。

平戸市は周囲を海に囲まれ、長崎県らしく教会が多く点在する人口3万4千人の異国情緒かおる町。25年度の7月から「ふるさと納税カタログ」を作った結果、24年度100万円だった寄付が4千万円弱を記録。本年度の6月にカタログをリニューアルし、デジタル決済を導入した結果、1億円を突破しました。

### 何度でも選べる特産品

カタログには「Ptt」という文字があります。これは「ポイント」のこと。平戸市では寄付するたびにポイントがもらえ、ポイントに応じて何度

### アドバイス

資源をどうプロデュースするのか  
企画財政課 黒瀬啓介さん(33)

ふるさと納税に取り組むとき、まずは地域資源の掘り起こしが大事です。しかし、その資源を顧客、特に都会のライフスタイルに合わせるよう商品設定するのが難しい



です。寄付は1万円が多いですが、どんなにおいしくても量が多ければ、選んでもらえません。その資源をどうプロデュースするかが問題です。

日本中どこでもおいしい物はあります。いろんな市町村でどうしているか調べたりして、地域産業を内需だけでなく、外に発信して地域活性化に結びつける、その一つの手法が「ふるさと納税」だと思います。普代村でも自慢できる物はあると思います。頑張ってください。

でも特産品が選べます。さらに余ったポイントは翌年度に繰り越されるため、まったく無駄がありません。これが平戸市のふるさと納税、最大の目玉。このポイント制導入で人気が出たのです。

「ふるさと納税」は、地方間格差や過疎などによる税収の減少に悩む自治体に対し、格差是正を推進するために平成20年に創設された制度。正確には「ふるさと応援寄付金」といいます。個人が2000円を超える寄付を行ったとき、住民税のおよそ1割程度が所得税から還付と住民税から控除されます。出身のふるさとに限らず、好きな市町村

などに寄付できます。

今回の視察で大上浩史議長は「村も政策の一つとしてふるさと納税。人材を登用するなど、やりようによっては普代村も十分チャンスがあると感じました」と話していました。

全国の住民税は約12兆円。ふるさと納税の税金控除額の上限はおよそ1割。つまり、ふるさと納税市場は1兆円と考えられます。しかし25年度の寄付金は約130億円。ふるさと納税の市場を1兆2千億と考えると、わずか0.9%に過ぎません。今後市場はさらに拡大されていくものと考えられます。

## ◆ 議会の主な動き (諸報告) ◆

議員が出席した会議や研修会、行事などを報告します。(4月23日～7月31日、抜粋)

4月 ▶ 27日・消防団特別点検(村内) ▶ 28日・岩手県沿岸知的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市)

5月 ▶ 6日・鶴鳥神社例大祭 ▶ 9日・町村議会議員研修会(盛岡市) ▶ 12日・村老人クラブ連合会定期総会(くろさき荘) ▶ 13～14日・再生可能エネルギー活用事例研修(一関市) ▶ 17日・普代中体育祭 ▶ 20日・東部町村議長会定期

普代中体育祭



総会(大槌町) ▶ 21日・国道455号・盛岡普代間道路整備促進期成同盟会通常総会(盛岡市) ▶ 24日・普代小大運動会 ▶ 26日・道路関係縦軸3団体合同総会(宮古市) ▶ 27日・岩手県沿岸知

的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市) ▶ 27～28日・第39回議長・副議長研修会(東京都)

6月 ▶ 3日・議会全員協議会(役場) ▶ 9日・岩手県沿岸知的障害児施設組合議会臨時会(宮古市) ▶ 17日・議会運営委員会(役場) ▶ 19日・村議会第5回定例会(役場) ▶ 26日・三陸北縦貫道路整備促進期成同盟会総会(宮古市) ▶ 27日・北奥羽開発促進協議会平成26年度定例総会(青森県八戸市) ▶ 30日・岩手県沿岸知的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市)

7月 ▶ 2日・八戸久慈自動車道建設促進期成同盟会要望活動(久慈市・宮古市) ▶ 4日、8日・議会広報常任委員会(役場) ▶ 9日・久慈広域連合議会全員協議会(久慈市) ▶ 10日・町村議会議長会第1回政務調査会・研修会(野田村)

議会全員協議会



▶ 15日・議会全員協議会(役場) ▶ 16～19日・行政視察研修(熊本県・長野県) ▶ 20日・村植祭(村内) ▶ 23日・第10回久慈広域連合議会臨時会(久慈市) ▶ 29日・議会広報常任委員会(役場) ▶ 31日・岩手県沿岸知的障害児施設組合例月現金出納検査(宮古市)



## 「希求」 村の平和願う

新屋 喜久男さん  
(62 = 旭日区)

妙相寺の森にある碑には村の平和と繁栄を願いつつ、日清日露戦争、満州事変、幾多の戦火に散った普代村民の百柱の名が刻まれています。中学生とともに村議会を傍聴した私は、中学で学んだ憲法第9条を思いました。戦後70年にならんとする今、この平和憲法が解釈変更され、戦争ができる国になろうとしています。全国の議会では慎重審議を求める意見書を国などに提出しています。改めて私は先人が強く求めた平和を、子孫につないでいかなければならないと思っています。

## 「中学生議会」に 期待すること

佐藤 嘉宏さん  
(普代中学校長)



村長さんや議長さんのご協力のもと、このたび普代村議会を傍聴させていただきました。さて、10月に行われる「中学生議会」では、中学生自身が住む普代村について、興味・関心を持ってもらい、自分たちの住む村をもっと良くするためにどうすればいいかを考えるきっかけになればと考えています。そのことがやがて、将来の村民を育てることにつながり、普代村の復興・発展に寄与しようとする生徒の育成にもつながっていくものと期待しています。

## あしがき



▼6月定例議会には普代中3年生26人が議会を傍聴し、静かに真剣に聴きっていました。そこから村長、議員が普代村のために一生懸命で取り組まれている様子を感じ取られたのかと思っています。そして、皆さんが、ふる里を愛し、将来おれが、私が普代村を引っ張っていくぞ、という人が出てくることを期待します。

(坂下重雄)

▼今回の議会だよりは、中学生の議会傍聴を最大限取り上げたという思いで取り組みました。中学生の皆さんの感想を読み、逆に議員としてしっかりと取り組んでいかなければならないという思いを強く持ちました。我々大人は、子どもたちの希望と笑顔がエネルギーの源泉です。感謝。

(中上一登)

## 議会広報常任委員会

委員長 中上 一登  
副委員長 森田 幸一  
委員 坂下 重雄  
小中居 敏光